

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島航空運賃割引の適用拡大	<p>今、喜界島の一番の問題点は何だろうと考えたとき、人口減や過疎化をどう食い止めていくかということが一番だと思った。移住者呼び込むことも大事だと思うが、島の住民の家族が帰りやすい環境づくりも大切だと思う。</p> <p>住民は離島割引により、鹿児島・喜界間、奄美大島・喜界間を半額以下の金額で利用することができるが、子や孫には割引がないため、高い航空運賃でしか飛行機に乗れず、頻繁には島に帰ってこられない。</p> <p>子や孫の世代まで、我々が利用している割引運賃を利用できるようにしてほしい。</p> <p>私はタンカン・マンゴーを栽培しているが、今のところ後継者がいない状況である。子や孫が頻繁に帰ってくれば、ひよっとしたら島や農業に興味を持ち、後を継いでくれる可能性もあり、人口増加につながるのではないか。</p> <p>サンゴ留学の留学生の親兄弟についても、せっかく6人の留學生が来てくれるので、6人の親兄弟も助成対象になれば、気軽に島を訪れることができると思う。</p>	<p>御提案のあった群島出身者の子や孫、留学生の親兄弟を対象に、航空運賃を軽減することについては、その対象となる者の範囲の設定や対象人数の把握、対象となるか否かの確認方法等に課題があり、一律に離島割引運賃の対象とすることは困難ですが、群島出身の学生等については、令和元年度から準住民として軽減対象としているところです。</p> <p>また、旅行商品造成への支援等を通じ、島外から安価に奄美群島を訪れることができるよう取り組んでいるところです。</p> <p>引き続き、島外からの来島者の移動コスト軽減の在り方について、検討してまいります。</p>	交通政策課
鳥獣被害対策	<p>数十年前から、人為的に島外から持ち込まれた鹿が野生化しており、農作物や植生への被害が増えている。</p> <p>植生の衰退にとどまらず、そこに集まる鳥や昆虫などの生物への影響もでており、また荒地となった表土の流出の可能性や、鹿につくダニにより人への感染症を引き起こす可能性が懸念される。</p> <p>一刻も早い全頭駆除のため、県の支援・協力をお願いしたい。</p>	<p>野生鳥獣による農作物被害の防止・軽減について、県では、寄せ付けない、侵入を防止する、個体数を減らすといった3つの取組を総合的かつ一体的に進めており、市町村が行う侵入防止柵の整備への支援や、市町村等が開催する研修会への鳥獣被害対策アドバイザーの派遣を通じ、集落ぐるみの取組を支援しているところです。</p> <p>引き続き、市町村と連携してソフト・ハード両面にわたる総合的な対策を推進し、被害の防止・軽減に努めてまいります。</p>	農村振興課 自然保護課
トカラウマの名称変更	<p>県指定の天然記念物になっている在来馬トカラウマについて、トカラウマは明治30年頃に、この喜界島から農業用として宝島に移入されたのが始まりで、その後は他の系統の馬と交わることなく、昭和27年、日本在来馬として、県の指定を受けている。</p> <p>2018年に十島村の中之島からトカラウマの若い雌一頭を譲り受け、島内で手厚く育てられている。喜界馬は江戸時代からサトウキビ栽培や黒糖生産に欠かせない存在であり、集落行事や祭祀などにも関わった歴史を持っており、私たちの生活と経済を支える大切な存在であった。</p> <p>トカラウマのたどった歴史的な変遷を物語る上でも、また、120年ぶりの里帰りをし、喜界馬復活の物語をこれから始める上でも、トカラウマの名称に喜界の名前を加えてほしい。</p>	<p>「トカラウマ」は、昭和27年に研究者により、「宝島に存する在来馬は全くの純粋なもので、日本において純粋日本馬と確認し得る唯一のものである。」として日本畜産学会に報告され、それまで名称が付けられていなかったことから、「トカラ馬（吐嚙喇馬、宝馬）」と称することとされています。</p> <p>このような経緯で付けられた生物学上の名称により天然記念物として指定しており、その名称の変更は難しいと考えておりますが、県教委においては、トカラウマが喜界島から移入されたという歴史的経緯については、ホームページ等で紹介しているところです。</p>	文化財課

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
鹿児島・喜界・知名航路の増便	<p>鹿児島・喜界・知名航路について、現在、航路は船2隻で、週5便体制で運航されている。将来的に人口や貨物量が減ることが予想される中、今後の航路の維持については、どのように考えているか。</p> <p>また、近年は温暖化で台風が次々と来て、1週間も10日間も船が来ていないという感覚になる。土曜や日曜にも航行できないか、県と国で話し合っ、いつでも出せるような体制をつくってほしい。</p>	<p>鹿児島～喜界～知名航路は、地域住民の生活に欠かせない重要な役割を果たしていますが、毎年度、多額の欠損額が生じており、収支改善を図ることも重要な状況にあります。</p> <p>同航路は貨物輸送が収益の柱となっていますが、週休日の運航（喜界島起点で日・月曜日の運航）については、貨物輸送が見込めず、需要の確保等に課題があると考えています。</p> <p>県としては、まずは、安定的な運航の維持確保を図ることが重要であると考えており、今後とも国や地元市町村などとも連携しながら、引き続き運航支援等に努めてまいります。</p>	交通政策課
公園等の整備	<p>手久津久集落は、ガジュマルの木の周りや、夕日の見える公園など、県からの支援で整備してもらっている。これからも同じように支援をお願いしたい。</p>	<p>県では、魅力ある観光地づくり事業により市町村からの提案を受け県内各地の観光地整備を行っており、現在、喜界町（手久津久）では「奄美トレイル観光環境整備」としてトイレや園地整備を行っているところです。</p> <p>新たな施設整備などの計画等について、同事業を活用する場合は、町からの提案を受け実施することとしていますので、まずは喜界町に御相談ください。</p>	PR観光課
大学の設置等	<p>喜界町に住んで、人口減少や、貴重な地域の資源・文化が失われていくことにとっても恐怖を感じている。</p> <p>若い世代は、高等教育機関がないため、高校を卒業したら都市部に流出してしまうので、喜界町に大学をつくりたいと考えている。</p> <p>喜界町が特徴的なカレッジというものをつくり、奄美群島には多様性のある島々があるので、うまくいった場合は、それぞれの特徴に合わせ展開し、将来的には奄美群島が、世界遺産の上にある総合大学みたいな形で世界に発信していくような場所になればいいと思う。</p> <p>文科省の方に聞いても、今の状態では認可が難しいという話がある。例えば、既存の大学の学院を申請したり、単位交換の制度を作ったり、海外の大学の学位を取れるような形も検討したが、既存の県立、あるいは国立の大学と連携しながらそのような制度を作ることはできるのか。</p>	<p>国においては、都会から地方への人の流れを生み出し、地方から流出しようとする人を食い止め、にぎわいの創出や地域を支える担い手の確保を図るため、地方へのサテライトキャンパスの設置を含めた、地方大学の魅力向上を推進することとされています。</p> <p>奄美群島においては、沖永良部島で星槎大学サテライトカレッジの設置実績があるほか、奄美大島で複数の大学と自治体が連携した共同キャンパスの設置等が検討されているところです。</p> <p>新たな高等教育機関の誘致等に係る動きがある場合は、必要な情報共有や支援等について検討してまいります。</p>	計画管理室
サンゴ留学の推薦枠	<p>今後もし喜界島の子供が増えて、島内の受験生で高校の定員が満たされた場合、サンゴ留学の枠がなくなるのではないかと危惧している。</p> <p>私が高校時代に離島留学をしていた島根県立隠岐島前高校では、島内生のための受験生の枠と、島外からやってくる留学生のための推薦枠があった。島内生も入学でき、島外生も一定数が入学できるようになっていた。</p> <p>サンゴ留学は、島内の方にもとてもいい制度だねと言っていたので、喜界高校でも離島留学の推薦枠を設けてほしい。</p>	<p>喜界高校の入学者選抜については、島内だけではなく、県外を含む島外からも受検できるため、サンゴ留学の希望者も受検することができます。</p> <p>なお、今後の募集定員については、喜界中学校の卒業予定者の進路希望状況に加え、サンゴ留学の希望状況等を注視していきたいと考えています。</p>	高校教育課

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島留学生の保護者の来島費補助	<p>サンゴ留学で来る高校生は、喜界町に住民票を置くので離島割引が使えるが、島外に住んでいる保護者は、補助が受けられず、来島するために結構な交通費がかかる。</p> <p>是非、未来のサンゴ留学生のためにも、保護者への来島費の補助について検討してほしい。</p>	<p>御提案のあった留学生の保護者を対象に、航空運賃を軽減することについては、その対象となる者の範囲の設定や対象人数の把握、対象となるか否かの確認方法等に課題があり、一律に離島割引運賃を適用の対象とすることは困難ですが、群島出身の学生等については、令和元年度から準住民として軽減対象としているところです。</p> <p>また、旅行商品造成への支援等を通じ、島外から安価に奄美群島を訪れることができるよう取り組んでいるところです。</p> <p>引き続き、島外からの来島者の移動コスト軽減の在り方について、検討してまいります。</p>	交通政策課
サンゴ留学生の住居整備	<p>先ほどサンゴ留学生の寮を見ていただいたが、令和5年4月に入学するサンゴ留学生で寮が満杯になってしまうため、令和6年入学生のために新しい寮を整備してほしい。</p> <p>寮を新しく建てるとう間に合わないと思うので、町としては空き家等を活用して受け入れていきたいと考えているが、何か支援などないか。</p>	<p>サンゴ留学生の寮については、喜界町において新たな寮の整備が計画されており、それまでの対応として、空き家等の島内施設を活用する予定と伺っています。</p> <p>空き家の活用について、過疎市町村内に点在する空き家を有効活用し、過疎市町村が実施する住宅整備に対して補助を行う「過疎地域集落再編整備事業」という制度や、市町村等が空き家を滞在体験施設など地域活性化に資する用途に改修する場合は、社会資本整備総合交付金等の国の制度があります。これらの制度により、過疎地域内の空き家を移住者等の住宅に改修する費用の支援を受けることが可能ですので、御検討ください。</p>	住宅政策室 高校教育課 地域政策課
地域資源の活用	<p>喜界島にはシークーという島みかんがあるが、全然活用されておらず、落ちて食べられなくなっているという現状があったので、それをどうにかできないかと思い、トバトバコーラという名のクラフトコーラ作りを始めた。</p> <p>「トバトバ」は喜界島の方言でウキウキという意味で、私は島で作った商品を出すときに少しでも島のことを知ってもらいたいという思いで活動している。</p> <p>シークーの木を活用するための取組が少ないのではないかと思います。</p>	<p>県では、農産物の高付加価値化を図るため、研修会や加工技術の指導等を通じて、農産物等の地域資源を活用した加工品の開発等を支援しているところです。個々の事業者が抱える技術的課題の解決のため、実際に現地に出向いての助言指導も行っています。</p> <p>また、農産物の加工等に関する相談窓口を県大隅加工技術研究センターに設けておりますので、加工技術等についてお困りごとがありましたらお気軽にお問い合わせください。</p>	かごしまの食輸出・ブランド戦略室

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
喜界島の文化の継承	<p>私は喜界島にまつわる文章や、民俗学に関する同人誌の製作の手伝いをしているが、高齢化が進んでおり、いつか作れなくなるのではないかと心配している。</p> <p>今失われつつある喜界島の文化が、アドバンテージとなり、喜界島や奄美群島を押し上げてくれるような魅力につながっていると思う。少子高齢化が進む中で、どうすれば、その文化を、負担が少なく、次世代に継承していくことができるか。</p>	<p>少子高齢化による地域の伝統文化を継承する団体の担い手不足については、大きな課題であると考えています。</p> <p>募集開始の際に御案内させていただきましたが、県では、令和5年度新たに、講習会の開催や広報ツールの作成など、活動員の高齢化等が進む団体の次世代への活動継承のための取組等を支援しています。</p> <p>なお、喜界町では、島唄や方言の講座を開設するなど、地域の伝統文化の普及啓発活動に取り組んでいるほか、中央公民館内にある教育委員会事務局生涯学習チームでは文化に関する様々な相談に随時応じています。また、民俗学等の研究を行っている研究機関に、必要に応じて助言を仰ぐことも一つの方法であると思いますので、今後こういった知見が必要である場合は、県文化振興課に御相談ください。</p> <p>教育の分野では、民俗芸能等の伝承意欲を高め、後継者育成を図るため、伝承活動に取り組んでいる児童生徒の表彰を行っているほか、学校教育活動等における文化財伝承の取組事例等をホームページで紹介しています。</p> <p>また、各学校においては、児童生徒が幅広い年齢層の人々と接し、人々の生活、文化、伝統に親しむことで、地域社会に対する愛着を高め、地域社会に参画する態度を育てています。具体的には、学校行事や総合的な学習の時間において、八月踊りや三味線などの伝統芸能体験活動に取り組んでいます。</p>	<p>文化振興課</p> <p>文化財課</p> <p>義務教育課</p>

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島への移住支援	<p>近年、離島移住に興味のある方が全国的にも増えているが、高額な引っ越し費用や、移住先での仕事、住まい探しの難しさから、喜界島や奄美群島への移住を断念する方もいる。</p> <p>東京都心部から鹿児島への移住支援制度があると思うが、その対象は、そのサイトに登録されている法人に勤務した場合に支援金が支払われることになっている。離島の場合、企業勤めという選択肢が少ないので、島しょ部にあった形での移住支援や、移住者へのバックアップを検討してほしい。</p>	<p>喜界町をはじめ、県内市町村では、お試し移住用施設や暮らし体験プログラムの整備など、移住に向けた様々な取組を行っているところだ。</p> <p>県では、離島暮らしなど移住希望者の関心の高いテーマを設けた移住・交流セミナーを市町村と連携して開催するほか、市町村を対象に、それぞれの地域特性に合った戦略的な取組ができるよう、移住希望者等が必要としている情報や支援策を紹介しているところだ。</p> <p>併せて、移住前から移住後までの生活の不安や悩み等に関する相談などの伴走支援を充実させるための体制づくりに取り組むこととしています。</p> <p>また、過疎地域などの人口が急減している地域において、地域内外からの人材を呼び込み、地域の担い手の確保を図る国の制度として、事業協同組合を設立し、マルチワークの仕組みを活用して安定的な雇用環境を創出する「特定地域づくり事業協同組合制度」があります。</p> <p>「地方回帰」の気運が高まる中、より多くの移住を希望する方々に本県を選んでもらえるよう、引き続き市町村と連携して、移住・交流の取組を進めてまいります。</p> <p>なお、国の移住支援金制度については、就職情報提供サイト「かごJob」に登録している企業への就業や、東京圏から自己の意思により移住し、移住元での業務をテレワークにて引き続き行う方を対象としているところだ。また、令和5年度から子育て加算が拡充されています。</p>	<p>産業人材確保・移住促進課</p> <p>地域政策課</p>

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島における起業支援	<p>離島で新規事業を立ち上げる場合、県本土と比べ、原材料の調達や、配送、販路形成など費用がかさむため、事業を立ち上げ、安定的に営業できるまでのハードルがすごく高くなっていると感じるので、島しょ部での新規事業のスタートの補助、立ち上げて間もない事業所の伴走型支援の拡充を、ぜひ検討してほしい。</p>	<p>かごしま産業支援センターに設置している「よろず支援拠点」では、新規事業計画の策定や販路拡大など、事業に関するあらゆる相談に各分野の専門家（コーディネーター）がワンストップで対応しており、チーム体制により経営課題の解決を支援しています。販路拡大等に活用可能な支援事業等も御紹介していますので、同拠点に御相談ください。</p> <p>また、県中小企業融資制度においては、新規に事業を開始される方を対象にした「創業支援資金」があります。資金のお申し込みなど詳しくは最寄りの商工会等に御相談ください。</p>	中小企業支援課
喜界島産品のPR	<p>昨年10月の全国和牛能力共進会で、喜界町のブースの担当として参加したが、喜界島産品は大変売り上げが好調で、終わった後に事務局に聞いたところ、速報値で43自治体の中で、喜界町が3番目に売り上げが多かった。</p> <p>喜界島の産品はポテンシャルがあるので、今後鹿児島県として商品を紹介する際などに、喜界島産品の紹介をしてほしい。</p>	<p>県では、鹿児島市にある県特産品協会が運営するブランドショップや東京都有楽町にあるかごしま遊楽館内のアンテナショップ、また全国各地で開催される百貨店での鹿児島物産展等に出品することにより、県産品を広くPRする場を提供しています。</p> <p>併せて、県特産品協会が運営するECサイト「かごいろ」に出品することにより、誰でもいつでも購入が可能となりますので、御活用ください。</p> <p>また、安心・安全で良質な県産農畜産物のブランド力を高めるため、安定的に生産・出荷できる産地づくりへの取組と、県産農畜産物のイメージアップや各品目の特性等に応じた販売促進などに取り組んでいます。</p> <p>具体的には、県内外における量販店等での販売促進活動や、東京の調理師専門学校と連携した取組、東京の高級果物店でのPRのほか、和牛日本一を契機にした東京の複数のレストランでのフェア等を実施しています。</p> <p>また、高品質で希少性のある果物の販売促進活動についても支援をしていますので、御活用ください。</p> <p>これらの取組を通じて喜界島産品をはじめ、県産農畜産物の販売促進につなげていきたいと考えています。</p>	販路拡大・輸出促進課 かごしまの食輸出・ブランド戦略室

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島患者への通院支援	<p>命の尊さは、離島に住む人間も本土で生活する人も同等ではないかと思うが、離島であるがゆえに、先進医療を受けられずに亡くなる方が、私の周りでも大勢いる。</p> <p>奄美群島には離島割引運賃制度があり、島民は、それを活用して、鹿児島や名瀬で買物をしたり、家族で旅行に行ったりでき、ありがたいが、先進医療を受ける病気の方には、高額な治療費に加え、何度も通院する必要もあるし、付き添いがいなければ通院できない場合もあり、物足りない。</p> <p>沖縄では、離島患者等支援事業という制度があり、離島患者の通院費の経済的負担の軽減を図っている。</p> <p>付き添いの方も含めた宿泊費などへの支援ができないか。</p>	<p>県では、離島関係都道県で構成する離島振興対策協議会において、離島と本土との格差が広がらないよう国に対し要望してきており、通院・入院費用等の支援についても、引き続き要望してまいります。</p> <p>なお、平成26年度から奄美群島振興交付金を活用した「奄美群島航空運賃軽減事業」により離島住民の航空運賃（県内路線）が普通運賃比約54%引に軽減されています。</p>	離島振興課 交通政策課
島民への精神的な支援	<p>奄美群島振興開発特別措置法について、長年金銭的な支援を受け続けてきており、ありがたいことではあるが、そのような状況に島民があぐらをかいているように感じている。</p> <p>奄振法の恩恵はありがたいが、支援がなくなった場合にどうやって地域を活性化していくのか、島民が危機意識、向上心を持って取り組むことができるように、精神的な支援もお願いしたい。</p>	<p>県においては、奄振法の目的である奄美群島の自立的発展に向けて、社会資本整備を進めるとともに、平成26年度からは奄振交付金を活用して、輸送コスト支援や運賃軽減等のソフト事業を行っているところです。</p> <p>しかしながら、令和4年度実施した、奄振法の延長に向けた奄振総合調査においては、「本土との間に経済的な格差が未だに存在していること」などの課題が明らかになったところです。</p> <p>奄美群島が更に発展するためには、法の延長とともに、法に基づく特別措置による支援の充実が必要不可欠であるため、今後とも、地元市町村をはじめ、関係する皆様と一体となって、国に働きかけてまいりたいと考えております。</p>	離島振興課

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島航路運賃割引制度の拡充	<p>離島航路の割引について町に確認したが、規定が厳しいと思う。</p> <p>「住所を有する者」となっているが、私も本籍は喜界島であるが、「住所」は有しておらず、「居所」を有している。</p> <p>法律の中に規定があり、「ただし、この限りにあらず」という規定があるはずだが、広義に捉えて、多数の人に利用できるような実効性のある制度にしてほしい。</p>	<p>平成26年から奄美群島振興交付金を活用し、離島住民等の航路運賃を軽減しており、令和元年7月からは、準住民（群島出身の大学生等）も対象とし、さらに、令和2年11月からは、軽減額の拡充及び制度の拡充（小児運賃への割引適用）をしているところです。</p> <p>島外からの来島者の移動コスト軽減の在り方については、引き続き検討してまいります。</p>	交通政策課
公立高校の教育速度の自由化	<p>本県の教育の現状は、全国の中盤から下位という結果がでている。</p> <p>公立高校は、中高一貫校を除き、高校3年生の冬に教育課程が修了するという現状があり、高校3年次を受験対策に充てられる私立高校が有利な現状がある。</p> <p>私立高校と公立高校、あるいは都会と地方の差をなくすため、学校やクラス別でのレベル別における教育速度の自由化を実現してほしい。</p>	<p>喜界高校には、普通科と商業科が1学級ずつあり、普通科においては、3年次に学級を進路別のコースに分け、希望者には課外授業を実施する等、個に応じた指導を行っています。</p> <p>また、県教委としては、少人数指導や習熟度別指導等、個々の生徒の課題や学力に応じたきめ細かい指導を通して、生徒一人一人の進路実現が図られるよう各高等学校を指導しています。</p> <p>引き続き、新学習指導要領にも掲げてある個別最適な学びの充実に努めてまいります。</p>	高校教育課
教育に関する相談体制の整備	<p>3人の子供を育てており、離島というハンディの中、子供に様々な経験をさせて子供の能力を伸ばすために、夫婦で勉強しているが、答えがでないことが多く、常に悩み葛藤している。</p> <p>そのような地方の親に対して、インターネットなどを活用して、教育に対する疑問や悩みを相談したり、アドバイスを受けられるシステムがあるとありがたい。</p>	<p>県では、教育上の悩みや子育ての悩みを相談する窓口として、夜間・休日を含めて24時間いつでも電話で相談できる「かごしま教育ホットライン24」を設置して、保護者からの相談を受け付けています。</p> <p>また、学校では、スクールカウンセラーが保護者からの子育てに関する様々な相談を受ける機会も設けています。</p>	高校教育課



知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
県独自の教育システム	<p>かつて長岡藩が窮地にあったときに、三根山藩から毎年送られた米百俵を、困窮する武士の食糧とせず、文武両道に必要な書籍や器具の購入に使用した。身分に関係なく子供たちが学ぶことができ、子供は才能を伸ばし、近代教育の基礎が築かれ、結果として藩は大きく成長した。</p> <p>少子高齢化や人口減少という難題に直面し、社会情勢の変化が大きい今こそ、現代にあった親や子供への県独自の新しい教育システムを鹿児島県として構築してほしい。</p>	<p>県では、鹿児島島の子供たちが、変化の激しいこれからの社会を生き抜き、未来を切り拓くために、基礎・基本を確実に身に付けるとともに、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力を育む教育を推進しております。</p> <p>子供たちが、それぞれの夢や希望の実現に向けて挑戦できる環境を整えるとともに、本県の歴史・伝統を踏まえ地域に根ざした教育を推進し、未来の鹿児島島や日本を担っていく人材育成を進めてまいります。</p>	総務福利課
家庭教育の在り方	<p>教育レベルの底上げに関しては、行政や教育機関に丸投げするのではなく、各家庭における努力が必要と考えるが、私たち各家庭に望むことはどんなことか。</p>	<p>子供は自分の良さや可能性を実感することで、自信を持ち、挑戦する気持ちが生まれます。だからこそ自己肯定感を育むことは、子供が自ら進んで学習していく土台として重要であると考えているところです。</p> <p>家庭では、愛情を持って子供の変容を見つめる姿勢を大切に、子供の良いところを認め、褒める時には、具体的に子供が努力した過程を褒めてほしいと思います。そうすることで、子供は自信をもち、難しいことに対して挑戦するようになります。</p> <p>予測困難な時代に、子供たちが自ら問題を見つけ学び続けながら夢や目標を実現できるよう、県教育委員会としては、学校・家庭が一体となり子供の成長を支えていけるよう支援してまいります。</p>	義務教育課

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
人口減少対策	<p>島の人口が減少する中で、個人的に何かできればと考えて、経営するスナックを出会いの場としてもらえるように取り組んでいる。</p> <p>去年スナックを立ち上げたので、まずは経営を軌道に乗せることが目標だが、軌道に乗せたあとは街コンのような男女が出会える場を提供したい。</p> <p>島の人口が減らない方向に、個人的にできることは頑張っってやっていきたいと思っているが、将来的に自分でできないようなところが出てきた際は、行政の協力などをお願いしたい。</p>	<p>県では、結婚を希望する方が若い年齢での結婚を実現し、少子化の原因である未婚化、晩婚化の進行を抑制するため、結婚支援策の一環として「かごしま出会いサポートセンター」を設置し、結婚を希望する方の出会いや結婚に関する相談事業を実施しています。令和5年度においては、地方や県外在住者が居住エリアにとられないように、登録からお引き合わせまでオンラインで対応できるようにセンターのマッチングシステムのオンライン改修を実施することとしています。さらに、センターから認定された企業(ホテル、飲食店等を含む)・団体、市町村などからなる「かごしま出会い応援団」がセンターのイベントシステムを活用することで、安心・安全なイベントを企画運営する仕組みも提供しているところです。</p> <p>また、市町村と連携し、地方との関わりに関心を持つ県外居住者を対象に、地域課題をテーマとした講座を開催し、地域と県外居住者が関わる機会を提供するなど、関係人口の創出・拡大の取組を実施しているところです。</p> <p>なお、都市部の若者等が一定期間地域に滞在し、働いて収入を得ながら地域住民との交流等を通じて、地域での暮らしを体感し、地域との関わりを深める「ふるさとワーキングホリデー」という国の制度もあります。この制度も、地域と県外居住者が関わる機会を提供するものです。</p>	子育て支援課 地域政策課
離島航路の見直し	<p>人口減少している中で、船の航路が週5便あるのはありがたいと感じているが、可能なら鹿児島と沖縄を結んでいる本航路を喜界島に寄せることで、週5便に合わせて、毎日寄ることができれば、喜界島の物流が安定すると思うので、検討してほしい。</p>	<p>鹿児島～喜界～知名航路は、喜界島民にとって唯一の定期航路として重要である一方、採算性が特に厳しいことから、国庫補助航路に指定されており、県は、国と協調して同航路の運航費を支援しているところです。</p> <p>鹿児島～沖縄航路が喜界島に寄港した場合、国庫補助航路の条件の一つである「離島にとって唯一の航路」ではなくなり、指定から外れてしまう懸念があります。</p> <p>県としては、まずは、鹿児島～喜界～知名航路の安定的な運航の維持確保を図ることが重要であると考えており、今後とも国や地元市町村などとも連携しながら、引き続き運航支援等に努めてまいります。</p>	交通政策課

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島の医療体制の充実	<p>医療関係で緊急を要するのに、どうしても荒天や台風で病院に行けないことがあると思う。</p> <p>喜界島の民間の医療機関に県の職員を派遣して、民間協働という形で、そこで遠隔治療、診断ができないか。徳洲会病院は各島々にあるので、そこと連携して、遠隔治療を実施するなど、医療体制を充実させてほしい。</p>	<p>県では、離島・へき地等における医療を確保するため、医療機関が遠隔医療を実施するために必要な設備整備に対して補助を実施しています。</p> <p>離島における救急患者については、夜間や悪天候の場合において、民間の航空機や船舶のほか、県のドクターヘリや県消防・防災ヘリでの対応が困難なときは、自衛隊や海上保安庁に対して急患搬送を要請し、沖縄や県本土、奄美大島に搬送していただいているところです。</p> <p>離島における急患搬送は、多くの有人離島を有する本県にとって極めて重要であり、県民の生命を守るため、今後とも、迅速かつ的確な対応に努めてまいります。</p>	<p>消防保安課</p> <p>保健医療福祉課</p>
島内での出産	<p>喜界島では出産できないため、予定日の1か月前には島を出て、出産する病院に行く必要がある。子供のいるお母さんが出産する場合、1か月別々に生活しなくてはいけないので、別々に暮らす母親と子供の精神的負担、また周りの家族の負担はとても大きい。</p> <p>どんなに良い島でも、この部分が解消されないと少子化は進むと思うので、島内で出産できるようにしてほしい。</p>	<p>産科医の確保が困難な中、県内全ての離島で出産できる体制を整備することは難しい状況です。</p> <p>このような中、出産のために別々に生活をする母子の精神的負担及び周りの家族の負担の軽減を図ることは、大変重要なことと考えております。</p> <p>県では、県助産師会と連携し「女性健康支援センター」を設置し、出産までのホテル等での待機期間においても、妊娠・出産や子育てに関する相談に対応しているほか、市町村の保健師が、不安を抱えた妊婦に対して定期的に連絡を取るなど寄り添った支援を行っております。</p> <p>また、子どもや周りの家族の負担軽減について、喜界町では子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や悩み等の相談ができる子育て支援センターひまわりの設置や、産前・産後期間の幼児の預かりを保育所で行っております。</p> <p>なお、島外で出産する場合の宿泊費や交通費などの経済的負担については県と町が一体となって補助を行い、負担軽減に取り組んでいるところです。</p> <p>引き続き、県内のどこにいても安心して子どもを産み育てられる環境づくりに努めてまいります。</p>	<p>子ども家庭課</p>

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>県産品の海外での販路拡大</p>	<p>鹿児島県には、和牛、ソラマメ、焼酎など日本一のブランドがたくさんある。喜界島も、白ごまの生産量が日本一であるなど、世界に誇れるものがある。 県全体で、日本一のブランドを取りまとめて世界に売っていくような流れができないか。</p>	<p>県産品の海外市場の開拓と販路拡大については、貿易相談や貿易実務講座の実施のほか、国内外バイヤーとの商談会や海外での鹿児島フェア等により、日本一の鹿児島和牛や、プリ、カンパチなど県産農林水産物等のPRに取り組んでいます。これに加え、輸出商社と県内事業者が連携して行う営業活動や商談機会創出等への支援、ECモールを活用した販売機会の提供やマーケティング支援を行うほか、デジタル化・オンライン化に対応した販売力・商談力を強化する県内事業者の取組を支援し、輸出拡大を図っていくこととしています。 農林水産物の輸出拡大については、「つくる」、「あつめる・はこぶ」、「うる」の3つの視点から、生産体制や販売力の強化に戦略的に取り組んでおります。本県農林水産物の令和3年度の輸出額は、過去最高の311億円となったところであり、令和7年度輸出目標額約300億円を4年前倒しで達成したことから、更なる輸出拡大に向けて、新たな目標額として約500億円（令和7年度）を設定することとしたところです。 引き続き、新たに設定した輸出目標額の達成に向けて、本県の強みを生かせる、第12回全国和牛能力共進会で日本一を獲得した「鹿児島黒牛」や、生産量日本一を誇る「養殖ぶり」などの海外での販売促進活動や輸出に意欲的な生産者の取組などを支援してまいります。</p>	<p>農政課 かごしまの食輸出・ブランド戦略室 販路拡大・輸出促進課</p>
<p>行政と連携した防災訓練</p>	<p>喜界町地域女性団体連絡協議会の活動は、行政と関わるものが多数ある。近年、防災について学ぶ活動も実施しているが、喜界島は奄美群島の中でも自然災害が少ない島で、幸せだなと考えている反面、災害への危機感を持たずに生活しているのではと考えている。 そういった中での関係団体との訓練は有意義であったので、今後も行政等と連携しながら活動していきたいと思っている。</p>	<p>県内の各市町村では、防災関係機関の災害時の応急対策に関する検証・確認及び住民の防災意識の高揚を図るため、毎年、防災訓練を実施しています。防災訓練においては、社会福祉や青年、女性に関わる団体、大学など、様々な団体に訓練へ参加いただいているところです。 また、県では、市町村の防災訓練に資するよう、職員を対象とした研修や県民の意識向上を図るための講演会などを実施しているところです。 引き続き、市町村や関係団体と連携しながら、地域防災力の強化に取り組んでまいります。</p>	<p>災害対策課</p>

知事とのふれあい対話（喜界町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
地域の活性化に向けた取組	<p>喜界島の若者や、喜界島に住んでいる若者は、新しい発想を生み出すなど、本当にすごい存在だと感じている。自分の世代は、今まで受け継がれてきたものを継承していただけだったが、若者の発想が刺激になってくれたらと感じているところ。</p> <p>私たち地域の女性が、喜界島をもっと活性化させるために、どんなことができるのか、どんなものをつくっていくべきか。</p>	<p>人口減少が進行し、地域の課題が多様化・複雑化する中において、男女共同参画の視点に立ち、女性の活躍推進や、女性も含めた多様な主体の連携による地域づくりに取り組む必要があります。また、U・Iターン者や若者なども含め、地域づくりの多様な担い手が出会い、つながり、新たな取組が生まれる場づくりも必要です。</p> <p>県では、自治会や女性団体、NPO、企業などの地域の多様な主体が連携・協力し地域課題の解決に向けて持続可能な取組が活発に行われる「共生・協働の地域社会づくり」を推進しております。また、地域資源の利活用を図り持続可能な地域づくりに向けて活動に取り組む団体に対するアドバイザーの派遣や、若者や女性など地域づくりに関心のある方が実践現場への参画などを通じて地域づくりを学ぶ人材育成講座の開催などにも取り組んでおります。</p> <p>また、地域活性化については、地域の方々に集落の維持・活性化を考えていただく機会を作り、その意識を高めていただくことを目的として、集落・地域の活性化をテーマとした基調講演やパネルディスカッションを行う「地域活性化シンポジウム」を開催しているところです。</p> <p>今後とも、市町村や地域課題に取り組む団体と連携を図りながら、共生・協働による地域社会づくりの推進に努めてまいります。</p>	<p>地域政策課 男女共同参画室 くらし共生協働課</p>